

城東じ・ば・子のおうち「支縁」における学生による地域福祉実践研究

社会福祉学科 堀川 涼子

はじめに

津山市は岡山県北東部に位置し、岡山県北部地域の行政、経済、教育、医療等の中心都市である。2018年1月1日現在の人口は 102,254人、世帯数 45,095世帯、高齢化率 29.5%、年少人口比率13.3%である。本報告の対象地、津山市城東地区は、旧津山市の中心市街地に位置し、13町内からなる、人口 1,248人、世帯数 634世帯、高齢化率 45.8%、年少人口比率9.3%の地区である。

少子高齢化が進む我が国においては、中山間地域の高齢化の進行のみならず、地方都市における中心市街地の過疎高齢化も深刻な課題となっている。城東地区は寺院や旧跡が豊富で、観光地として町並みの整備や祭り、イベント等が開催され、町内会や近隣住民との結びつきは強い地域であるといえる。一方で、空き家は13.7%と津山市内の地区で最も高い割合であり、地域課題となっている。さらに商店の閉鎖等、過疎高齢化が進んでいる地域である。

1、じ・ば・子のおうち「支縁」とは

人口減少・少子高齢化が進む城東地区にある空き家（津山市上之町）を大学が借り上げ、地域支援活動の拠点として整備を進めている。2015年9月創設したもの。その拠点名を「じ・ば・子のおうち『支縁』」という。

現在、この家に学生（社会福祉学科2・3・4年生4人）が居住し、城東まちづくり協議会による三世代交流活動「じ・ば・子のおうち」活動への参加や城東地区の様々な地域活動、伝統行事等への協力参加を行っている。

城東地区に学生が住み込み、「城東地区住民」の一人として、「じ・ば・子のおうちプロジェクト」や 日常的な高齢者等の生活支援

（声かけ、ゴミ捨て、買い物支援、お話し相手等）を行うことをめざしている。これまで地域づくり活動をしていた同じ地域に、大学としてもう一つの拠点『地（知）の拠点』をつくること、地域の課題である空き家を活用すること、少子高齢化が進む地域で美作大学の教育目標「食と子どもと福祉」にかかわる活動を行うことを特長としている。

2、「支縁」における2017年度の活動状況

「支縁」の活動状況については、以下の通りである。まず、毎月定例で行われる以下の会議に入居学生が交代で出席している。

- ・城東まちづくり協議会定例会
- ・じ・ば・子のおうち運営委員定例会



その他、毎月2回城東「子どもの居場所事業」に参加している。また、上之町3丁目町内会の役員（書記）として、地区の役割も担っている。

次に、城東地区で行われるイベントや行事への参加状況は以下の通りである。

4月1日 さくらまつり 城東事業参加
4月2・3日 城東屋敷・梶村邸の雛飾りの片付け



4月8日 子どもの居場所事業
まちめぐり参加

4月9日 アートクラフト展ボランティア参加
5月5日 子ども委員会設立総会参加



5月14日「着物 de まち歩き」参加



5月25日 『支縁』 新入居者歓迎会

6月4日 町内清掃参加

6月10日 子ども委員会会議

6月14日 美作学園理事長への
活動報告会

6月24日 子どもの居場所事業
昔遊び参加

7月8日 子どもの居場所事業
七夕参加

7月18日 荒神宮 夏祭り 準備参加

7月22日 子どもの居場所事業
おうちで遊ぼう（縄跳び）参加



8月7日 ごんごまつりで城東連として
わっしょい津山に参加

8月11・12日 子どもの居場所事業
じ・ば・子のお泊り会参加

9月9日 子どもの居場所事業
敬老の日のプレゼント作り参加

9月24日 東公民館祭り参加



10月9日 じ・ば・子の大運動会



10月21日 子どもの居場所事業 写生大会

11月3日 子どもの居場所事業
敬老の日のプレゼント配り参加
11月5日 城東むかし町参加



11月19日 じ・ば・子の文化祭

12月 8日 地域の方々との忘年会

12月17日 じ・ば・子のクリスマス会

12月24日 子どもの居場所事業 大掃除参加

平成30年

2月17日 子どもの居場所 雛飾り参加

2月19・28日 福寿湯・城東屋敷・箕作邸の雛飾り参加

3月3日 子どもの居場所事業 雛祭り参加



3月16・17日 四年生を送る会



3月17日 子どもの居場所事業

城東地区雛めぐり参加

3月18日 新入居者説明会

4年生が1人卒業により退去となり、新たに30年度より新2年生が1名入居することが決まった。

3、学生 発案 の 取 り 組 み 「縁 結 び 交 流 会」

これは、「支縁」のある上之町3丁目の住民に声をかけ、交流の場「縁結び交流会」を開催したもの。

10月1日に開催した第1回目では、地域住民5人が参加した。また大学からは鶴崎学長、長谷川副学長、小坂田社会福祉学科長と堀川が参加した。大学のコンセプトと学生たちの思いを地域住民に直接伝える機会となった。



3月10日に開催した第二回目の交流会では、初めに学生が挨拶し、支縁のコンセプトと前回の交流会の様子をスライドで説明。その後、改めて全員が自己紹介を行い、3月のひな祭りにちなんだお菓子を配り交流。今回初参加の方もあり、学生は参加者から城東の歴史について新しく知ることも多くあった。また話の中で、近所付き合いの深さや、地域住民のつながりを感じていた。



「生活支援サポーター養成講座」への受講

生活支援サポーターとは、介護保険認定で要支援、事業対象者の認定者を対象に、自宅を訪問して、生活の困りごとに対してお手伝いをするボランティアのことである。日々の生活のちょっとした困りごと、ゴミ出しやお掃除、誰か手伝ってくれたら助かるのに、といった高齢者の支援を行うことを目的に、現在、津山市として養成講座が行われている。入居学生4名全員が受講した。

4、活動における課題

支縁入居学生は年間を通して、さまざまな地域行事に参加している。

開設から3年が経過し、地域における「支縁」の周知は進んでいる。ただし、まだ個別の支援

活動にはつながっておらず、本来の目的に達していないことが課題として挙げられる。

5、成果

①「縁結び交流会」の開催

学生自ら発案・企画した交流会の開催により、これまでも挨拶程度は交わっていた近隣住民と、名前を呼んでもらえる関係になり、庭の花を持ってきてもらったり、おすそ分けをもらったりする関係に発展した。

②「サポーター養成講座」の受講

津山市の委託による津山市社会福祉協議会主催の「生活支援サポーター養成講座」を学生自ら申し込み、全員が受講。縁結び交流会を通じて、顔の見える関係、名前を呼び合う関係になった近隣住民等の日常生活におけるお手伝いを行うことができるよう、サポーターとして、受講し登録を行うことにしたという。教員へは事後報告であった。

6、今後に向けて

1年次から入居している学生が、自らの卒業研究のテーマを「住民同士の繋がりを深める地域づくり～じ・ば・子のおうち支縁の活動を通じて～」として題して、自分たちの活動の意義と今後の展望をまとめている。アンケートの作成、インタビュー調査を行うと共に「縁結び交流会」を今年度も2～3回開催する予定である。すでに7月22日に第3回目の交流会を開催した。今回は切り絵等の作業を一緒に行いながら、交流することを試み、盛況であった。また近隣住民が自ら切り絵の原案を持って参加するなど、住民側にも主体的な動きが見られた。

次回は、城東地区の民生・児童委員や愛育委員、津山市社会福祉協議会や地域包括支援センター職員にも声をかけ、住民の小さなニーズが専門職へ届くプラットフォームになることをめざしている。

「地(知)の拠点」としての位置づけは大学や教員側が認識しているだけでなく、学生自らが内発的に感じる必要があり、そのことから主体的・自発的に取り組みを行うことができると考える。学生の「支縁入居者としての自覚」と「自発的な取り組み」が、その可能性を広げている。